

宮原まちづくり株式会社の 経営状況を知りたい!?

河口涼一 議員



議員 宮原まちづくり株式会社が設立をされて12期が終わり13期目に入っておりますが、設立の前の説明会であった内容と現在の経営状況が一致するものか。さらに、この事業が将来に向かって、町民に理解をされ、支持をされ、そして期待をされていくのかを根底に置きまして、質問をします。

このやり取りをちゃんと議事録に残し、後日、議会広報誌において町民の皆様にも内容を報告、周知し、さらに理解を求めていきたいと思えます。

まず、設立時の事業の目的に沿った運営がなされているのか。

半官半民、官の知恵と民間の活力を活かし、効果的な運営がなされてきたのか。

総務振興課長 町民の暮らしの中心となる中心市街地の再生を図る最大の目的で商工会、行政、農業者、一般住民の力を結集して実現するよう設立したもので、

まちづくり酒屋を拠点とし、各種団体による展示や体験講座を行い町内外より人を集めています。

「わらしべ市」や「ひなまつり展」など、現状は十分ではないが、目的に沿った役割は果たしてきていると考えています。

新八火図書館のオープンにより、「まちづくり酒屋」の土日開館を含め、活性化を考えたい。

議員 町からの補助金や委託料などに依存していないか。

総務振興課長 平成15年の設立当初は、まちづくり酒屋の管理委託料、その後、指定管理委託料ということと管理に要する人件費等の委託料をいただいておりますが、喫茶や物販販売だけでは厳しく、平成19年から八代生活環境事務組合のクリーンセンターの請負業務を行い、収支が好転してきている。

喫茶、物販販売、EM菌発酵液を製造販売している

まちづくり酒屋を拠点とし、各種団体による展示や体験講座を行い町内外より人を集めています。

「わらしべ市」や「ひなまつり展」など、現状は十分ではないが、目的に沿った役割は果たしてきていると考えています。

新八火図書館のオープンにより、「まちづくり酒屋」の土日開館を含め、活性化を考えたい。

議員 町からの補助金や委託料などに依存していないか。

総務振興課長 平成15年の設立当初は、まちづくり酒屋の管理委託料、その後、指定管理委託料ということと管理に要する人件費等の委託料をいただいておりますが、喫茶や物販販売だけでは厳しく、平成19年から八代生活環境事務組合のクリーンセンターの請負業務を行い、収支が好転してきている。

喫茶、物販販売、EM菌発酵液を製造販売している

まちづくり酒屋を拠点とし、各種団体による展示や体験講座を行い町内外より人を集めています。

「わらしべ市」や「ひなまつり展」など、現状は十分ではないが、目的に沿った役割は果たしてきていると考えています。

新八火図書館のオープンにより、「まちづくり酒屋」の土日開館を含め、活性化を考えたい。

議員 町からの補助金や委託料などに依存していないか。

総務振興課長 平成15年の設立当初は、まちづくり酒屋の管理委託料、その後、指定管理委託料ということと管理に要する人件費等の委託料をいただいておりますが、喫茶や物販販売だけでは厳しく、平成19年から八代生活環境事務組合のクリーンセンターの請負業務を行い、収支が好転してきている。

喫茶、物販販売、EM菌発酵液を製造販売している

まちづくり酒屋を拠点とし、各種団体による展示や体験講座を行い町内外より人を集めています。

「わらしべ市」や「ひなまつり展」など、現状は十分ではないが、目的に沿った役割は果たしてきていると考えています。

新八火図書館のオープンにより、「まちづくり酒屋」の土日開館を含め、活性化を考えたい。

議員 町からの補助金や委託料などに依存していないか。

総務振興課長 平成15年の設立当初は、まちづくり酒屋の管理委託料、その後、指定管理委託料ということと管理に要する人件費等の委託料をいただいておりますが、喫茶や物販販売だけでは厳しく、平成19年から八代生活環境事務組合のクリーンセンターの請負業務を行い、収支が好転してきている。

喫茶、物販販売、EM菌発酵液を製造販売している

小さな合併の成果を問う!? (第5弾)

江寄 悟 議員



議員 氷川町の福祉についてお伺いします。

現在、議会推薦で国民健康保険運営協議会会長を仰せつかっていますが、国民健康保険運営がいかに幅広く多岐に渡って業務が存在し、その運営に職員の方々が日夜頑張っておられることを肌で感じております。

さて、福祉という言葉は、大辞林によると「幸福・幸せ」の意味だと書いてあります。総合振興計画では、お年寄りや障がい者の方が一人でも安心して暮らせるまちづくりと定義されています。

そこで、福祉の未来の綱4項目について、現在の進捗状況をお伺いします。

ア、お年寄りや障がい者を地域で支える仕組みの充実についての成果は。

健康福祉課長 高齢者福祉計画及び障害者福祉計画に基づいて、個人が人として尊厳を持ち、家族や地域の

中で自立した生活を営めるよう各種サービスの充実と住民主体の支え合いの仕組みを目指しています。配食サービスでは、在宅での自立支援を目的に88名の方が利用されています。住宅改造成事業として要介護世帯を対象に助成を行い70件の利用がありました。また、いきいきサロンへの助成も31地区で行われています。

議員 在宅での自立支援が一番ですが、一人で生活するのが心配になられた方々の手助けをする人たちはいま、出会っていますか。

その人たちは、氷川町の地域包括支援センターの職員の皆様です。我が身を粉にして、一人暮らしの高齢者の方や老老介護の方たちを日夜廻って世話をされています。

氷川町は、小さな合併のお陰で、氷川町社会福祉協議会において地域包括支援センターが運営されています。

八代市においては、民間事業者が委託され、各施設の中において相談援助業務が行われています。

私は行政として、今後高齢者の方が増加していく中、この地域包括支援センターを拡充して、高齢者の皆さんをしっかりと見守って頂き、安心して支援センターに「生活相談」ができるようにすべきだと考えますが、町長の考え方は。

町長 地域包括支援センターの果たす役割は、ますます大きくなっていくと思えます。包括支援センターを含め社会福祉協議会全体の見直しも必要です。民間の施設で出来る事は民間に任せ、社会福祉協議会の本来あるべき仕事を現在議論している所です。

包括支援センターの拡大、充実については、しっかりと協議し、進めて参ります。

議員 イ、誰もが生き甲斐を持って暮らせる環境の充実についての取り組みの成果は。

健康福祉課長 社会参加機会を促すため、ふれあい大

学を開催し249名の方が受講されています。

議員 ユニバーサルデザインによる人にやさしい環境づくりは、非常に大切だと思えますが、どのように考えておられますか。

町長 まさに住宅リフォーム事業の創設もそういった視点もあり、個々の家で住みやすい環境を支援しています。公共施設においても当然、そのような視点から

整備を進めて行きます。

議員 ウ、いきいきと暮らすための健康づくりの進捗状況は。

健康福祉課長 生涯を通じて健康診断受診体制を充実させるため、各種健診を実施しています。また、医療費助成を中学生まで拡大しました。生涯スポーツでは年間3回の町民体育祭を行い健康増進に寄与しています。

施策の大綱 「福祉の未来について」

合併後の 財政状況について

議員 「平成の大合併耐える姿勢浮き彫り」という大見出しで熊日新聞が特集を組みました。交付税の減額で大幅な財源不足が懸念され、各市町村長のコメントが載っていました。合併しなかった市町村長は、合併しなくてよかったと約半数が答えています。合併市町村長は、合併して良かったと一人もコメントしていません。財政状況についてお伺いします。

町長 私どもの仕事は予算主義です。まずは財源をしっかりと確保することが私の一番の仕事だと思っております。財政調整基金が、合併時7億円、私が町長になった平成21年に11億円、現在24億5千万円まで積み増しました。今後、大型事業が計画されていますのでその財源確保に努めてまいります。

宮原まちづくり株式会社の 経営について

まちづくり酒屋を拠点とし、各種団体による展示や体験講座を行い町内外より人を集めています。

「わらしべ市」や「ひなまつり展」など、現状は十分ではないが、目的に沿った役割は果たしてきていると考えています。

新八火図書館のオープンにより、「まちづくり酒屋」の土日開館を含め、活性化を考えたい。

議員 町からの補助金や委託料などに依存していないか。

総務振興課長 平成15年の設立当初は、まちづくり酒屋の管理委託料、その後、指定管理委託料ということと管理に要する人件費等の委託料をいただいておりますが、喫茶や物販販売だけでは厳しく、平成19年から八代生活環境事務組合のクリーンセンターの請負業務を行い、収支が好転してきている。

喫茶、物販販売、EM菌発酵液を製造販売している